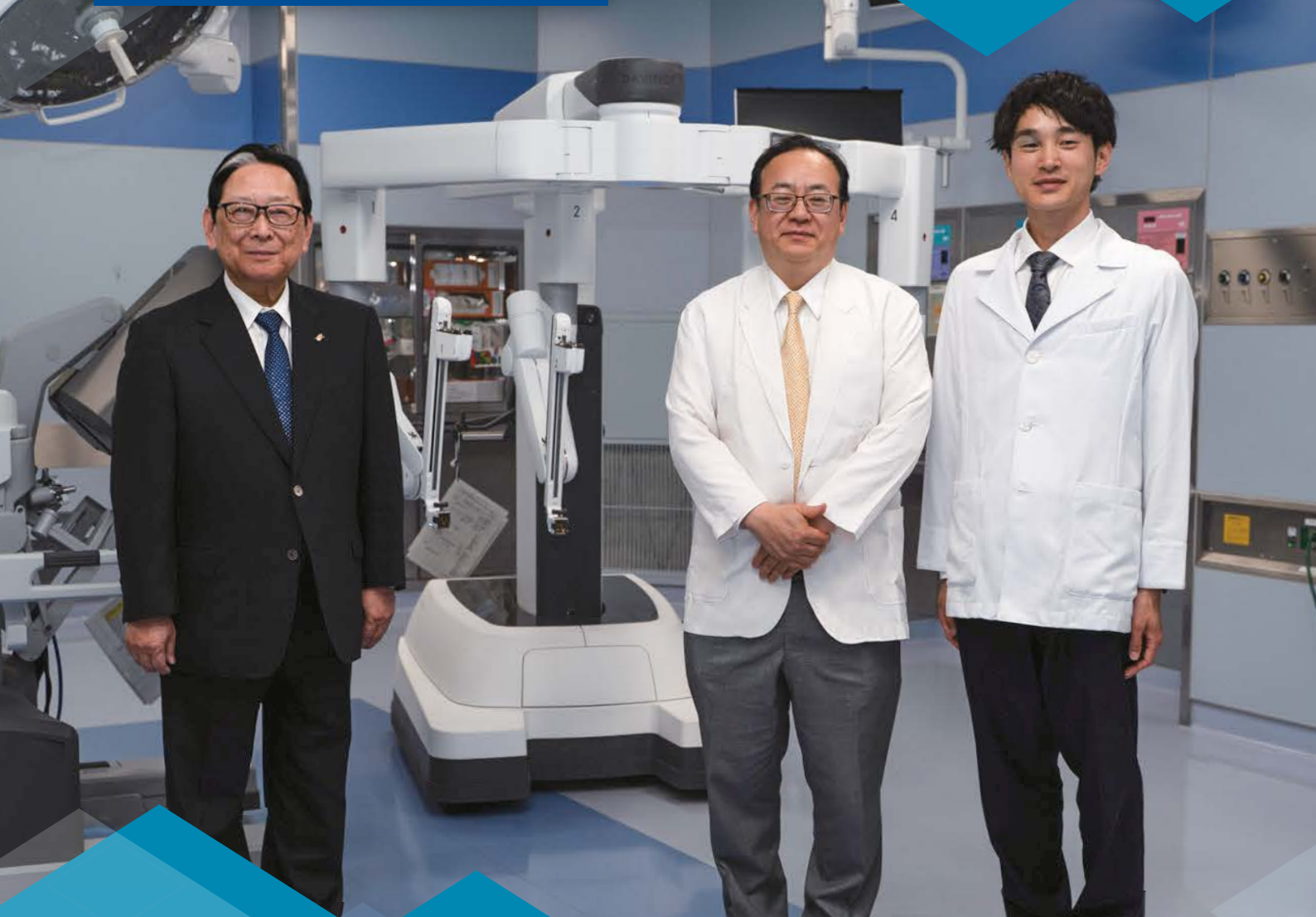


岐大の いぶぎ 2026 Spring-Summer No. 51

特集

先端を究める。 地域に寄り添う。



鼎談 医療への想いを語る

岐大の環境が医学・医療のレベルを高める。
3つの受賞はその証。

岐阜大学医学部附属病院 がんセンター

岐阜県全体のがん医療のレベルアップが、
大学病院としての使命

奥穂高岳夏山診療所

「日本一高い診療所」で学ぶ、医療の原点

看護学科 地域生活体験実習

病院の外へ！人々の暮らしに学ぶ看護

One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点

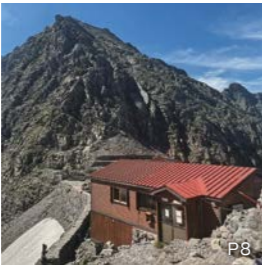
人獣共通の疾患メカニズムが創薬を加速



P4



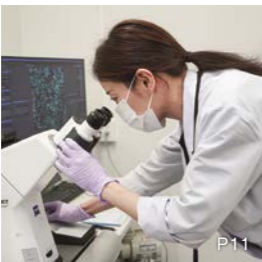
P6



P8



P10



P11



P12



P14



P16



P18

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2026
Spring-Summer No.51

published by



03-11 【特集】先端を究める。地域に寄り添う。 鼎談 医療への想いを語る

岐阜大学学長／東海国立大学機構 大学総括理事・副機構長	吉田 和弘
医学部附属病院 呼吸器外科長 呼吸器センター長	岩田 尚 教授
医学部附属病院 消化器外科	畑中 勇治 助教
岐阜大学医学部附属病院 がんセンター	松橋 延壽 センター長

奥穂高岳夏山診療所

大学院医学系研究科長・医学部長 医学部附属地域医療医学センター長 日本登山医学会専門医	牛越 博昭 教授
医学部 脳神経外科	武井 啓晃 臨床講師・助教
医学部 医学科4年 2025年度大班長	勝又 みなみ さん

看護学科 地域生活体験実習

医学部看護学科	高橋 由起子 教授
---------	-----------

One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点

COMIT拠点長・岐阜大学副学長 医学部整形外科	秋山 治彦 教授
-----------------------------	----------

12-13 先輩の声
大学時代から変わらない持ち前のしなやかさで予測困難な壁を越える。

森永製菓株式会社 代表取締役社長 COO 1984年 農学部農芸化学科 卒業	森 信也 さん
---	---------

14-15 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。
大規模な自然災害が突きつける、労働法の新たな課題と可能性。
働く人の暮らしと権利を守りたい。

地域科学部 地域政策学科	河合 豊 教授
--------------	---------

16-17 いまを駆ける!岐大生FACE
ストリートダンス部 MEC (Mighty Elements Crew)

応用生物科学部 応用生命科学課程 3年	成瀬 愛夏 さん
教育学部 英語教育講座 3年	横山 春奈 さん
地域科学部 地域政策学科 3年	柴垣 仁那 さん
工学部 機械工学科 3年	篠田 英兎 さん

18-19 ひらけ!授業の扉
大学院 自然科学技術研究科 刃物学リーディング人材育成プログラム

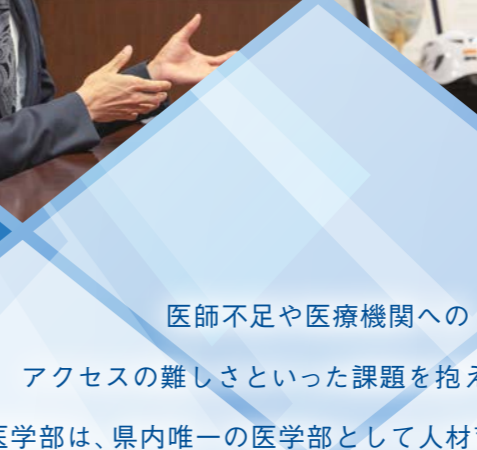
工学部 機械工学科 機械コース 関の刃物サステナブル技術革新拠点 拠点長	畝田 道雄 教授
---	----------

20-21 Topics 岐阜大学の取り組み Oct.2025→Mar.2026

22 岐阜大学基金

特集

先端を究める。 地域に 寄り添う。



医師不足や医療機関への

アクセスの難しさといった課題を抱える岐阜県。

岐阜大学医学部は、県内唯一の医学部として人材育成を担うだけでなく、

附属病院や関連病院による県内全域への医療提供、

さらには最先端の研究を通じて、

地域課題の解決に取り組んでいます。

岐大の環境が 医学・医療のレベルを高める。 3つの受賞はその証。

岐阜県における内視鏡手術のバイオニアである岐阜大学医学部附属病院。消化器外科および呼吸器外科における内視鏡手術の3人のスペシャリストがそれぞれ受賞したことを記念し、鼎談を行いました。

内視鏡手術のバイオニアとしての 実績と技術は国内外で高く評価。

吉田学長 消化器外科講座で切磋琢磨した仲間や弟子と同時期に受賞できたことは非常にうれしく、教育者冥利に尽きます。大上賞は日本で内視鏡外科手術の先駆者である大上正裕医師の名を冠した賞ですね。

岩田教授 ええ。私が医師になった1989年当時は、大きく切開する外科医が偉大とされた時代でしたが、間もなく内視鏡ブームが到来し、技術向上のために学会が設立されました。今回の受賞理由ですが2点ございます。一つは、呼吸器外科医は、肺がんの手術を請け負うのですが、もろい肺動脈を扱います。それを出血させると命にも関わります。そのような手術を内視鏡下でより安全に執り行うために、日本呼吸器外科学会では、手術動画を評価する技術認定制度を発足し、私とその運用に貢献したことです。もう一つは、手術支援ロボットを用いた洗練された術式をアメリカで学び、独自に工夫し日本に普及させたことです。現在、国内の肺がんのロボット手術の約30%がその術式です。

吉田学長 私が受賞した中山恒明賞は、がんの臨床において優れた業績に与えられる賞です。がんを自分の手で治したくて外科を選んだのですが、1980年代の大きく切る手術では、術後の合併症や再発による死亡例が多発していました。そこで基礎研究を行い、手術創や縫合不全の傷口に集まる白血球（好中球）が自壊して出すタンパク質分解酵素のエラス

ターゼについて研究を重ねました。エラスターゼが、がん細胞に増殖因子を放出させることを突き止め、縫合不全等の合併症の少ない食道がん・胃がんの術式を開発しました。さらに、抗がん剤でがんを小さくしてから腹腔鏡や手術支援ロボットで切除する治療法を提唱し、食道がん・胃がんの治療で実績を上げ、これが標準治療*となった業績が評価されました。畑中先生の受賞は、その腹腔鏡手術の技術に関するものですね。

畑中助教 はい。腹腔鏡手術のレベルアップを図るため、日本や世界の内視鏡学会では縫合などの技術を競う大会が開催されています。昨年度と今年度、私は個人で日本代表選抜1位となり、昨年度は世界大会で優勝しました。日本チームはレベルが高いのですが、それでも大会では

緊張しました。チームワークで勝つことができ、吉田学長からも特別賞をいただきました。

※標準治療 科学的根拠に基づき、専門家が安全性と有効性を確認した最善で最先端の治療法のこと。多くの患者さんに推奨される。

荣誉につながる成果を生んだ 関わる人々の寛容さや「和」。

吉田学長 今回の受賞の背景には、岐阜大学の環境は影響していますか。

畑中助教 私は学生時代の実習を通じて、腹腔鏡手術に興味を持ちました。初期研修先の県内の病院では、指導医師から「興味があるなら、患者さんに失礼のないようトレーニングを積みなさい」とご指導いただき、自主練習に励みました。岐阜大学病院では早くから手術を経験させてもらいました。吉田学長が教授時代に言わ

モットーは「和をもって貴しとなす」。

PROFILE

吉田 和弘 学長

食道がん・胃がん研究の第一人者。学長就任以前は医学部附属病院長、がんセンター長、消化器外科学教授等を歴任。「消化器癌における分子病理学的解析と集学的治療開発に関する研究」により、がんの治療・診断・予防に関する顕著な研究成果を表彰する「第31回中山恒明賞」を受賞。



医師には情熱と知的好奇心が重要です。

PROFILE

岩田 尚 教授

岐阜大学大学院医学研究科 修了。呼吸器センター長、呼吸器外科長、内視鏡外科手術トレーニングセンター長。第18回日本ロボット外科学会学術集会 会長。日本内視鏡外科学会が毎年1人選ぶ、内視鏡外科学に携わる医師の最高の荣誉である「第18回 大上賞」を、岐阜大学で初めて受賞。



技を究めて、岐阜に恩返しします。

PROFILE

畑中 勇治 助教

岐阜大学医学部卒業。消化器外科所属。3人が1チームで内視鏡手術の技術を競う世界大会「ELSA-WCES 2025 MIS Championship」の一員として参加し優勝。その日本代表選抜選手権は日本内視鏡外科学会が主催、2025年に続き2026年も第1位を獲得し日本代表に選出。



ステージⅢの胃がん患者の生存率を改善する治療法を開発し、現在では標準治療となりました。さらにステージⅣでも「化学療法でがんを小さくし、手術で切除すれば長生きできる」との考え方を普及させることができました。これらも私1人の力ではなく、講座や関連病院、さらには患者さんの協力があって実現できたものです。

畑中助教 チームで手術の現場に臨む魅力こそ、まさに私が外科を選んだ理由です。岐阜大学のチーム力はかけがえのないものです。関連病院にも「和」が浸透しており、研修医時代も人間関係で悩むことなく、充実した研修期間を過ごせました。

この先も標準治療となるような 最先端の治療法を 生み出していきたい。

吉田学長 それぞれが切磋琢磨した総和として今の岐阜大学医学部があることを誇りに思います。

最後に、医学部を目指す人へのメッセージはありますか。

岩田教授 目先の実利のみにとらわれることなく、医療をより良いものへと発展させたいという情熱と、尽きることのない知的探究心を持つ方々

に私どもの後輩になってほしい。
畑中助教 私のように、憧れを原動力に医師を目指すのもいいと思います。他に必要なのは、人へのやさしさです。もちろん、身近な人も含めてです。
吉田学長 まさに、医師には相手の気持ちを理解することが大切です。人の意見を素直に真摯に受け入れ、客観的に考えようとする姿勢も必要です。あとはぜひ、英語を議論ができるレベルまで身に付けてほしいと思います。皆さんの今後の目標を聞かせてください。

岩田教授 医学を基礎から理解した総合的な外科医の育成に注力したいです。

畑中助教 これからも外科医の仕事の魅力ややりがいを積極的に発信し、岐阜の外科診療に誇りをもって取り組む外科医を育成することで、私を育ててくれた岐阜に恩返しをしたいと考えています。

吉田学長 私の目標は、岐阜大学病院が標準治療を実施するだけでなく、次の標準治療となる最先端の治療を続々と生み出せる大学であり続けることです。全国の大学や病院と連携して新しいエビデンスを作り、患者さんとご家族に喜ばれる治療を、今後も展開していきたいです。

岐阜県全体のがん医療のレベルアップが、 大学病院としての使命

がんセンターでは、患者さんそれぞれに応じた医療を提供するとともに、先進的ながん治療の開発と人材育成を通じたがん治療のベストを目指し、患者さんご家族の心と体の痛みの緩和サポートを実践しています。

お互いの顔が見える規模を活かし 診療科の垣根を越えて連携。

岐阜大学医学部附属病院がんセンターは、「都道府県がん診療連携拠点病院」として県内8施設の「地域がん診療連携拠点病院」と連携(図1)し、岐阜県におけるがん診療の質の向上や連携体制構築の中核を担っています。胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がんの5大がんに関しては、地域の医療機関との病診連携により、患者さんが地元にながら十分な医療を受けられる体制を築いています。一方で、5大がん以外の希少疾患については、大学病院としての知見を活かし対応しています。

当センターの特色は、病床数約600床という、医療者同士の顔が見える規模による診療科の垣根を越えた連携です。消化器外科や心臓血管外科などの全外科、または外科、内科、病理診断科に加えて、臓器別に放射線科などとの合同カンファレンスを1~2週間に1回実施。例えば、食道がんと肺がんを1回の開腹で手術

したり、心臓疾患と大腸がんの併発なら回復の早い大腸がんの内視鏡手術の後で心臓を手術したりというように、患者さんの身体的負担を最小限に抑える手術を可能にしています。

最先端のロボット支援手術や治験、 妊孕性温存治療やゲノム診療を提供。

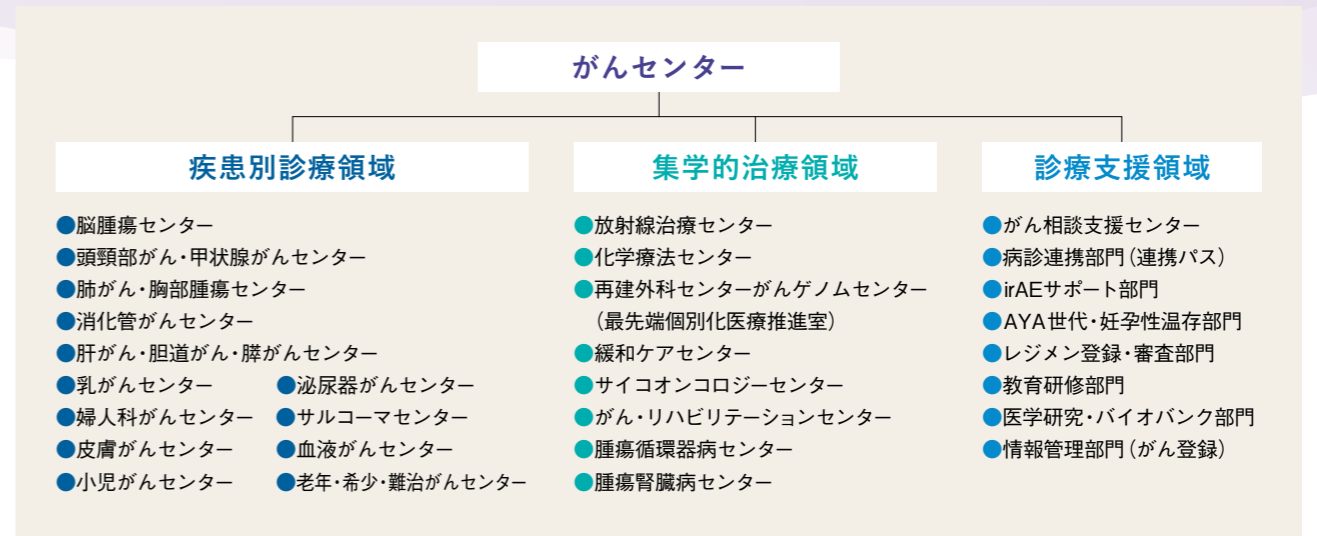
特色ある医療としては、手術支援ロボットによる内視鏡手術が挙げられます。ロボット支援手術が増えている消化器外科はもちろん、呼吸器外科や泌尿器科にもエキスパートの医師がおり、地域の連携施設への導入サポートも行っています。現在は、アメリカ製のダヴィンチ2台に加え純国産のhinotori1台が稼働。hinotoriは共同研究として利用しており、今後の改良には私たちの意見も反映されることとなります。

新薬の治験も、特に消化器系のがんや乳がんに対して積極的に行っています。過去10年以上にわたり、国立がん研究センター東病院や国立がん研究センター中央病院との連携の下、

患者さんをきめ細かくフォローしながら実績を積み重ねてきました。今日では、製薬会社から東海エリアにおける治験先として選ばれる存在となりました。標準治療後に適用できる薬がない患者さんに対しても、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬を中心に、全国数施設でしか治験が行われていない新薬を提供しています。

また、小児と15歳から39歳のAYA世代が、がんの治療を経ても生殖機能を残せるよう、卵子・精子の凍結や子宮温存などの治療を行う「妊孕性温存」にも注力しています。産婦人科や小児科をはじめ乳癌外科や血液内科の専門医、さらにはカウンセラーを含めた連携は、大学病院ならではの体制です。

近年力を注いでいるのが「がんゲノム医療」です。標準治療が終了した、または標準治療のない患者さんに、がん細胞の数十から数百個の遺伝子を調べる「がん遺伝子パネル検査」を行い、患者さんの特徴に対応した薬剤をエキスパートパネルと呼ばれる検討会で選択します。岐阜大



がんセンターは専用の建物や施設があるわけではなく、各診療科の医師と、化学療法センターなど集学的治療領域や診療支援領域の専門スタッフが連携し、がんと共生する時代の患者さんを支えている。

学医学部附属病院は、国内に252施設ある「がんゲノム連携病院」でも、独自のエキスパートパネルを開催できる42施設の一つとなっています。

広い岐阜県のすみずみまで 高いレベルのがん診療を。

現在、「がんゲノム医療拠点病院」の指定を目指し、現行体制をさらに強化しています。県内には私たちと同じがんゲノム医療連携病院が他に7病院あります。今後、がんゲノム医療拠点病院に指定されればそれらの病院の中心的存在として、エキスパートパネルの提供やオンラインによる診療・カンファレンスなどが可能となり、患者さんは地域の病院でがんゲノム医療を受けられるようになります。

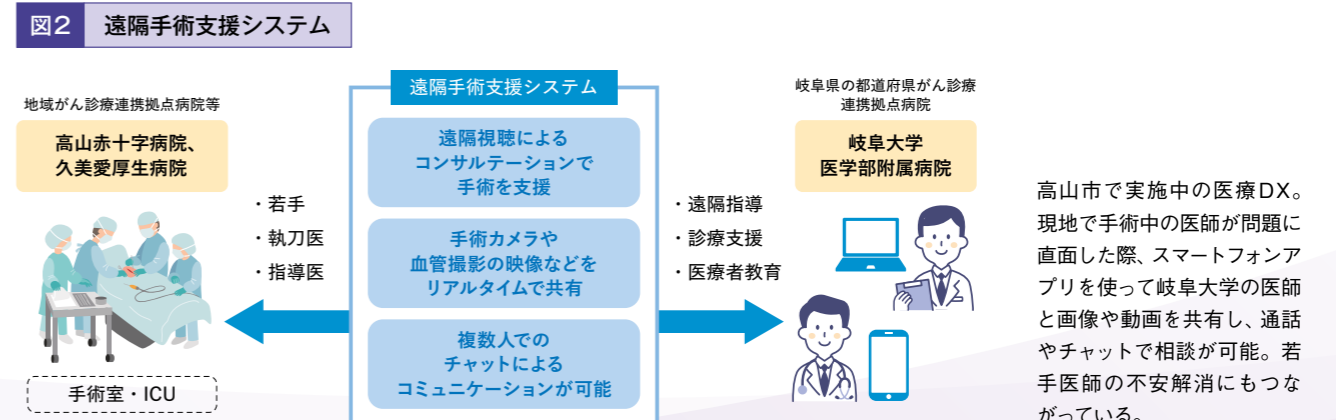
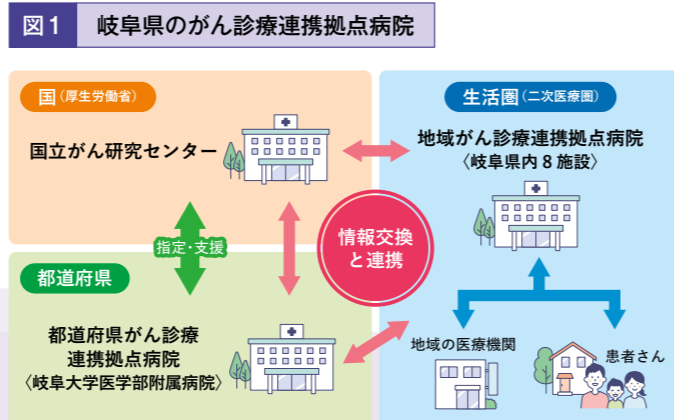
遠隔指導や診療連携の強化も

図っていきます。すでに高山市では、「デジタル田園都市国家構想」の一環として医療DXを導入し、岐阜大学から現地の医師へ遠隔で手術支援をしたり、現地の医師が専用アプリを通じて秘匿性を守りながら岐阜大学の医師と画像を共有して診療相談したりするシステムを運用しています(図2)。遠隔地の若手医師の教育にも有効なこのシステムを、県内の他エリアにも拡大する考えです。

新たな取り組みとしては、国が収集したがん患者さんの「がん登録(診断・治療・経過データ)」から県内での医療格差を検討したいと考えています。例えば、医療への関心が薄いエリアで検診を促す啓発活動を行い、岐阜県が掲げる健康寿命延伸を後押しするのも、がんセンターの役割だと思っています。

私たちが目指すのは、がんセンターがリーダーシップをとり、広大な岐阜県全域にレベルの高いがん診療を提供することです。岐阜大学の医療者として、患者さんが質の高い医療を県外へ求めるとしたら寂しい限りです。岐阜県民はもちろん国内外から「新しい医療を岐阜で」と選ばれる病院になることを夢見ています。

実習の学生には、「ベッドサイドで患者さんの話をよく聴き、人と人のつながりを築くように」と伝えています。治療薬が進歩した今、がんと長年共生する患者さんの人生に、医師も向き合っていくことになります。医師だからと意見を押しつけず、患者さんに寄り添った医療を提供してほしいと思います。いくらロボットが発達しても、人が人を治療することに変わりはないのです。



高山市で実施中の医療DX。現地です術中の医師が問題に直面した際、スマートフォンアプリを使って岐阜大学の医師と画像や動画を共有し、通話やチャットで相談が可能。若手医師の不安解消にもつながっている。

「日本一高い診療所」で学ぶ、医療の原点

夏の登山シーズンに穂高岳山荘の冬季避難小屋に開設され、山岳医療の最前線を担う「夏山診療所」。岐阜大学医学部附属病院の医師や看護師、岐阜大学医学部の学生らがその運営を担っています。

ここが奥穂高岳夏山診療所

安全を守るヘルメットと聴診器、メンバーでおそろいの山小屋Tシャツ

機器に頼らず患者さんを診る。あらゆる医療の基本を学ぶ場。

奥穂高岳夏山診療所は、穂高岳山荘の創始者である故今田重太郎氏の冬季避難小屋を利用し、約70年続いてきた活動です。この活動を目当てに岐阜大学への進学を選んだ人もいるほどの人気です。

毎年4月頃、大団長に任命された学生が中心となり、事務職員とも連携して参加者を募集し、事前説明会や山荘との調整、食料調達の準備を進めます。高山病や低体温症などの医学的知識や登山のルールも事前に学習。医療チームとなる6人のパーティで、鎖場やハシゴの難所もある上級者向け登山ルートで現地へ赴きます。

患者さんが多いのは、登山者が山荘に到着するお昼頃以降の時間帯です。主な症状は、高山病や転倒による捻挫・骨折など、軽症には応急処置を行い、重症の場合は岐阜・長野両県警

岐阜大学医学部 奥穂高岳夏山診療所

奥穂高岳夏山診療所は奥穂高岳に続く標高約3000mの白出の科尔(鞍部)に建つ穂高岳山荘に、1958年から毎年夏山シーズンに稼働。岐阜大学医学部系と医学部附属病院や岐阜薬科大に在籍する教員・医師・看護師、学生などが6人で班を組んで携わる。山岳救急医療、登山者支援、医学教育という三つの側面から地域と登山文化に貢献している。2026年度は7月31日から8月17日の期間に、6班が3日間ずつ駐在予定。

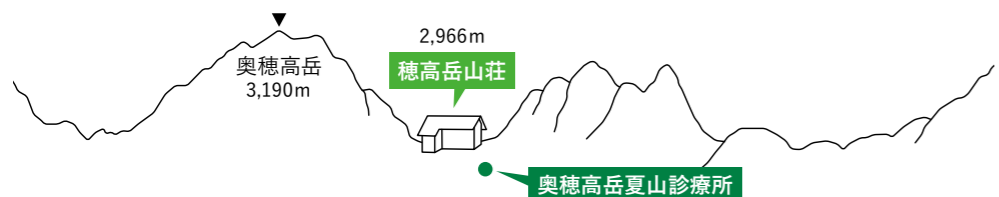
と連携しヘリコプターで搬送します。

夏山診療所に運べるのは血圧計、体温計、酸素濃度計といった最低限の機器だけで、CTやMRI、レントゲンはありません。骨や肺の状態を把握するにも機器に頼れないため、患者さんと向き合い、見て身体に触れて総合的に診る「プライマリ・ケア」を学ぶことができます。まさに、近年の実習重視の医学教育と地域医療の趣旨に沿った活動と言えるでしょう。学生だけでなく、例えば第一線で働く脳神経外科医にとっても、限られた医療資源で細かな神経の診察を行う経験は、大いに勉強になっています。

実習に先駆けて患者さんと接し、医療者としての自覚が育つ。

学生は毎日夕食後、医師や山荘スタッフのサポートを受けながら、登山者に高山病予防啓発のミニレクチャーを実施します。酸素飽和度を測定したり、自身も高山病の症状を経験した学生はその実体験を交えたりして、「口をすぼめて、まず息を吐くことが大切」といった知識を、医学的根拠とともに伝えています。

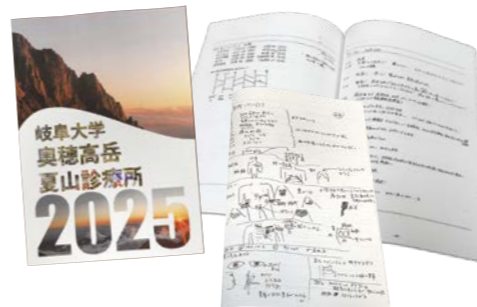
診療の際は、学生は医師の指示に従って、患者さんの症状の聞き取りやカルテの記入、血圧・体温の測定



奥穂高岳夏山診療所



山荘で登山者に向けて、高山病などのレクチャーをする学生



1日のスケジュールからゲーム結果、日々の学びまで、多岐にわたる活動記録をまとめたノート。冊子化して参加者へ配布

奥穂高岳夏山診療所へのご寄附のお願い

登山装備や物品を安全に維持・管理するため、皆様からのご寄附を募っております。詳細は右記の2次元コードよりご覧ください。



奥穂高岳登山MAP



などの予診を行います。患者さんと話すことで「安心した」と言われた経験が、「医療者として患者さんを安心させる態度が大切だ」という意識を深めるきっかけにもなっています。

学生にとって夏山診療所での経験は、医師の手技を間近で見てその場ですぐに体得できること。喜んで模擬患者を買って出る医師から、「このやり方をすれば痛くない」といった指導を1対1で受けられる貴重な場でもあります。チームの医師が研修医の場合には、学生はその姿を見て自分の数年後を想像でき、研修医は強い責任感が涵養される、トップダウンの教育とは異なり、段階的に効果的な教育ができる「屋根瓦式教育」の場となっています。

下界ではできない経験も、仲間との強い絆も一生の財産。

患者さんのいない時間帯には奥穂高岳の登頂もでき、夜は満天の星や流星群も見られます。室内ではカードゲームや外科医の手技の訓練にもなる箸を使った豆つかみゲームなどを楽

しむほか、人生や進路の相談といった「山トーク」にも花が咲きます。どれも山に滞在するからこそ経験で、下山後にみんなで入る温泉も格別です。

こうした時間を共にした仲間とは、専門診療科や職種を超えた強い絆が築かれ、その後も一緒に山に登ることもあります。また、医師同士であれば病院で患者さんのことを相談したり、共同研究や講演会に呼び合うなど、実際の臨床の現場や教育・研究への波及効果も生まれています。

参加した学生の多くが、勉学のモ

チベーションが上がったと話します。また、実際に自分の目で見て、手を動かしてやってみたことは何年経っても覚えていて、ベテラン医師となっても決して忘れられない経験であり、医療者としての原点となります。他職種を目指す学生からも刺激を受け、「法医学志望だけれど、山岳地域での臨床にも興味を持った」など、進路の選択肢も広がります。学生の皆さんには、成長へのきっかけとして、この夏山診療を体験してほしいと願っています。

できなかった悔しさを、下山後の学びにつなげてほしいです。

現場で患者さんを前にし、もっと勉強しなくてはと思いました。

機器に限られ私たちも勉強になる！テーピングも調べ直しました(笑)。



大学院医学系研究科長・医学部長
医学部附属地域医療医学センター長
日本登山医学会専門医
牛越 博昭 教授



医学部 医学科4年
2025年度大団長
勝又 みなみ さん



医学部 脳神経外科
武井 啓晃
臨床講師・助教

病院の外へ！人々の暮らしに学ぶ看護

看護の学びは病院内だけではなく、地域の人と関わり、日々の暮らしに触れる体験を通じて、看護に欠かせない想像力を育み、看護を実践できる力を養っています。

地域で暮らす人たちと交流し、生活者を支える視点を養う。

地域生活体験実習の目的は「生活の場を知ること」と考えています。近年、医療は病院中心から地域へと大きくシフトし、患者さんは、短期間で退院して地域で生活することが求められるようになりました。看護師の業務も、病院の中だけで完結するのではなく、地域で暮らす人々の実際の姿を理解することが不可欠になっています。

この実習では、学生が地域に赴き子どもから高齢者までさまざまな人と関わります。元気に活動する高齢者や子育てに向き合う保護者の姿など、教科書では分からない暮らしぶりに触れます。岐阜大学がある岐阜市黒野地区の自治会連合会やまち

づくり協議会の皆さんと連携し、文化祭や歴史探訪といった地域のさまざまな行事に参加します。同時に、健康上の問題などで行事に参加できない人たちにも目を向け、目の前にいる一人ひとりの生活者の背景や退院後の暮らしを想像する力を育てています。

退院後の生活に想いを巡らせ、一人ひとりの生活を護る。

1年次には、まず「人・健康・環境」を知ingことを目的に、行事に参加しながら地域への理解を深めます。2年次には、1年生にアドバイスをしつつ自らイベントを企画するなど、地域の人たちとより主体的に関わっていきます。脳トレゲームや健康体操といった企画を立案し、会場担当

者と交渉して運営することで、企画力や調整力、リーダーシップといった力も自然と養われます。これらの経験から、入院中のケアだけでなく、「退院後、この人はどんな生活を送るのか」という視点を持てるようになり、4年次の保健師課程の実習やその後の臨床現場へとつなげていきます。

私が目指しているのは、「人を考えてもらえる看護師」を育てること。この地域生活体験実習は、看護のゴールが地域での生活にあると理解する第一歩となるはず。ここでの学びを活かし、地域の人々の健康を護るという視点を大切に、地域社会の中で看護の役割を発揮できる看護師を目指してほしいと願っています。



ひとり暮らしの高齢者の集い



公民館講座



児童館企画



黒野歴史探訪

黒野まちづくり協議会と連携事業し「黒野歴史探訪」に毎年参加。住民と共に歴史的背景を学びながら、地域理解と住民とのコミュニケーションを深める実習を実施。

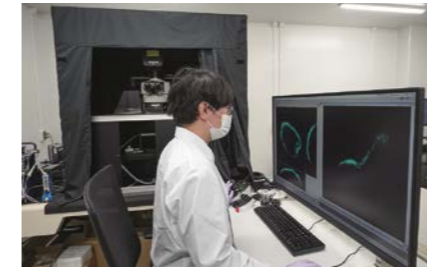
看護のゴールは地域での生活。人を考えて考えられる看護師になってほしいです。

医学部看護学科
高橋 由起子 教授



人獣共通の疾患メカニズムが創薬を加速

2023年発足のCOMIT。「ヒトと動物の疾病は共通」すなわち「One Medicine」という新たな視座から、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が連携して研究を行う、東海国立大学機構の拠点事業です。



二光子顕微鏡で生体内の遺伝子発現を観察



共焦点顕微鏡で免疫染色組織を撮影



クリーンベンチ内で培養細胞を維持

共通の疾患メカニズムを解明し 創薬につなげる新しいアプローチ。

ヒトとイヌ・ネコ等の動物には、アトピー性皮膚炎やがんといった共通の疾患があります。データサイエンスを活用し、種による発症や病態の相違点・共通点を詳細に比較・解析し、人獣共通のメカニズムを解明することで、双方の疾患の予防・診断・治療に使える医薬品の開発が期待できます。

従来型の医薬品研究開発では、マウスやラットによる実験結果は良好でもヒトで十分な効果が得られなかったり、副作用が認められたりするなどの理由で、多くが研究と臨床試験の間に横たわる「魔の川」に落ちてしまうことが課題でした。これに対して私たちの方法は、疾患データ解析の対象にマウスやラットに加えイヌやネコ、希少疾患の病態解析モデル動物としてマイクロミニピッグと、ヒトに近い種も使うため、魔の川を越える確率が格段に高まります。

COMITはこのような創薬研究の変革と、「Sharing Medicine (人獣共

通医療学)」という新学術領域の基盤形成を目指しています。創薬に限らず、再生医療や検査機器を含めた治療に必要な技術を開発するため、比較医学研究開発部門、創薬データサイエンス部門、革新的モダリティ創出部門、先端医療機器開発部門の4部門が連携しています。

創薬に興味ある若手を増やし、育成することも重要な使命。

研究成果はホームページのほか、毎年開催するCOMITシンポジウムでも発表しています。2025年度のテーマは再生医療。岐阜大学からは、マイクロミニピッグを用いたヒト臓器再生移植プロジェクトを発表しました。

COMITは、研究機関であると同時に教育機関でもあります。学生が創薬に興味を持ち、研究とビジネス・知財マネジメントを理解し、国際感覚を備えたグローバルリーダーとして活躍できるよう企業からも講師を招き、基礎から応用までの教育課程を設けています。2026年3月には第1

期生25名が修了しました。病気は誰もが罹るもの。人類はこの先も新たな薬を創ろうと試みるでしょう。これからも、私たちの研究成果を引き継ぎ、新たな視点を加えて前進させてくれる次世代の育成に努めます。



COMITシンポジウムは高校生を含む200人超が参加。

研究成果を臨床へスピーディにつなぎます。

COMIT拠点長
岐阜大学副学長
医学部整形外科
秋山 治彦 教授



森永製菓株式会社
代表取締役社長 COO
森 信也 さん
1984年 農学部農芸化学科 卒業

岐阜大学学長／東海国立大学機構
大学総括理事・副機構長
吉田 和弘

先輩の声 volume 07

大学時代から変わらない 持ち前のしなやかさで 予測困難な壁を越える。

失敗を責めない先輩の姿が
マネジメントの基本姿勢に。

学長 今回は、後輩たちに岐阜大学出身の経営者のサクセスストーリーから学んでもらうために、森永製菓の森社長にインタビューをさせていただきます。まずは学生時代のことからお聞かせください。

森社長 私は勉強熱心とはいえませんでした。授業はきちんと出ていました。当時、農学部のキャンパスは各務原にあり、在学途中に現在地へ移転しました。2年次からは家賃が3,000円もしない、共同トイレ風呂なしのアパートで1人暮らしを始めたのですが、壁が薄く、友人たちと麻雀

をしていたら隣に住んでいた方に怒鳴られたこともあり。あまりお金が無かったので、食事は自炊でいかに安く作るかに知恵を絞っていましたね。

学長 それは驚きです。熱中していたことや一番の思い出は何ですか？

森社長 アーチェリー部での活動もありますが、何よりアルバイトですね。塾講師や家庭教師に加え、スーパーの販売員など十数種類、珍しいものではパチンコ店の遊戯台の清掃もしました。

学長 大学ではどんなことを研究したのでしょうか。

森社長 栄養食品研究室で、パン酵母に含まれるビタミンB6の転換酵素

を研究していました。そこで大きな失敗をしたんです。2〜3日徹夜してやっと酵素を抽出したのに、必要な方を捨ててしまった。先輩に叱られると思い焦りました。ところが全く叱られなかった。マネジメントをする立場になってからは、失敗しないことより同じ過ちを繰り返さないことが大切だと指導しています。

学長 社会人としての考え方に影響する経験をされたのですか。

森社長 何もやらないより、やっって失敗の方が絶対いいんです。新たな創造につながるわけですから。失敗したら誉められるくらいの企業風土になればと思っています。

学長 そもそも森永製菓を就職先に



1. 岐阜大学時代の栄養食品研究室にて
2. 20〜30代はプライベートでよく海外旅行に出かけていた(写真は中国・桂林市)
3. 研究所長時代に「共創」をコンセプトとした「森永R&Dセンター」を設立



森 信也氏 PROFILE

森永製菓株式会社 代表取締役社長 COO。名古屋出身、1962年生まれ。1984年3月岐阜大学農学部(現応用生物科学部)農芸化学科卒業。同年4月、森永製菓に入社し飲料の研究開発に従事した後、2013年6月よりヘルスケア事業部長、2016年4月より執行役員健康事業本部長、2019年1月より執行役員研究所長等を歴任し、2025年4月より現職。2025年10月発足「岐阜大学経営者の会」にも参画。

選んだ理由は何でしょう。

森社長 当時は企業から研究室へ求人が来た時代。研究室の先輩が「おとっと」を開発しヒットしたことから所属研究室に求人があり、入社を決めました。その時その時を一生懸命楽しむタイプなので、将来こうしなければという考えは特になかったんです。ただ入社後は、飲料の研究開発に興味を持ち配属先に希望しました。先輩が権限委譲してくれる職場で、研究開発主導のプロダクトアウト型での商品づくりが主流の時代だったので、かなり自由に開発できましたね。実は当社のグループ企業には、岐阜大学農学部出身の社長が私の他に2人いるんですよ。岐阜大学と森永製菓は相性がいいのかもしれません。

ボーダレスな共創が 新たな創造につながる。

学長 手がけられた中で特に印象深い商品はどんなものでしょうか。

森社長 「inゼリー」の前身となるゼリー商品です。健康事業が立ち上がって新たなゼリー商品を開発することになり、飲料担当の私と、カップデザート、グミ、設備の4人チームで臨みました。残念ながら開発商品は発売とはなりませんでした。枠組みや部門を越えて知恵が融合し、その結果生まれた技術がヒット商品の基盤につながりました。その後に異動したマーケティング部門で売上拡大にも

携われた喜びは大きかったですね。

学長 会社人生の中で特に大きな出来事という、どんなことですか？

森社長 二つあります。一つは35歳頃、当時提携していた飲料ブランドからの撤退です。もう一つが45歳頃、通販事業の立ち上げに携わったこと。撤退と創造の両方を経験できたことが、経営資源配分を判断する上で生きています。撤退する悔しさは言い尽くせませんが、経営に携わる中では気候変動や海外情勢など自分たちではコントロールできない外部要因もあり、変化に対応するレジリエンスが大切だと思っています。

学長 準備があるからこそ対応できるのだと思います。ところで本学との共同研究もされていますよね。

森社長 応用生物科学部の西津教授の食品加工学研究グループとの研究成果が、クッキー「ムーンライト」の割れ防止や食感(物性)の改善に活かされています。当社は三大ブランド商品の「inゼリー」「チョコモナカジャンボ」「ハイチュウ」でお分かりのように、食感創造が強みであり、物性研究はとても重要な要素です。他にも約200件の共同研究が進行中ですが、新たな価値創造には「共創」が欠かせません。そこで2022年に開設した「森永製菓R&Dセンター」では、共創をコンセプトとした開放的な空間の中、社内外の交流を大切に研究を行っています。

学長 岐阜大学も「世界屈指の共創

型社会実装大学」を掲げ、共同研究を通じてグローバルな企業の研究開発成果を商品化し、地域振興に貢献することを目指しています。共創の姿勢には大いに共感します。後輩であり、共同研究相手でもある学生たちにメッセージをいただけますか？

森社長 岐阜大学の学生憲章にある「本をたくさん読み、学んでいく上での土壌を作ろう」「文学と芸術を愛し、人間と自然への理解を深めよう」は、まさに私が伝えたいことそのものです。私自身、趣味の音楽や映画、読書で感性が養われましたが、どんな仕事も論理性と感性の両方が必要。若く感受性豊かなうちに、特に学業や仕事と関係のない本を読み、感性を養ってほしいですね。

学長 最後に、これからの岐阜大学への期待をお願いします。

森社長 キャンパス内に岐阜県の研究機関があるなど、産官学が一体となった地域振興の取り組みが素晴らしいと思います。東海国立大学機構の中でも地域に根差した存在として、新しい価値創造の中心となり、モデルケースをグローバルに発信してくれることを期待しています。

学長 東海環状道の岐阜インターチェンジ開通に加え、リニアやLRTの計画もある中、この黒野地区をライフサイエンス、ものづくり、学術の拠点として発展させていきたい考えです。ぜひオピニオンリーダーとしてご指導いただければ幸いです。

大規模な自然災害が突きつける、労働法の新たな課題と可能性。働く人の暮らしと権利を守りたい。

労働法は元々「平時」を想定した法律であり、「会社が責任を負うことで労働者を守る」という前提のうえに成り立っています。そのため、近年相次ぐ大規模災害の場面にそのまま当てはめようとする、さまざまな問題が生じてしまいます。こうした現状を踏まえ、「災害時に対応した労働法のあり方」について研究しています。



地域科学部
地域政策学科
河合 壘 教授

労働法はどうあるべきかを理論と実務の両面から考える。

私の専門は、現代の社会問題に対応する労働法のあり方についてです。近年、社会は大きく変化しています。大規模な自然災害が多発し、少子高齢化も想像以上のスピードで進んでいます。それに伴って私たちの働き方も大きく変わりつつあります。こうした状況のなかで、「使用者に労働契約上の責任を負わせることで労働者を守る」という従来の労働法が

「このままでいいのか」と問われる場面が増えてきています。

特に大規模自然災害のような突発的かつ広範な社会課題に対しては、「平時」を前提とした労働法がうまく機能しないケースがあります。使用者自身が被災し、責任を果たすことが困難になる場合もありますし、災害による負傷・死亡という点でいえば、労働法による事後的な金銭補償よりも予防の方が明らかに重要でしょう。また、ハラスメント対応などにも見られるように、法律は大枠

を示すだけで、具体的な対応は会社に委ねられることも多く、「何をどこまでやればいいのか分からない」といった戸惑いが現場に生じるケースも少なくありません。そこで私は、こうした課題に対して、理論と実務の両方の視点から「労働法はどうあるべきか」を考えることが、研究には必要だと考えています。

労働法に興味を持ったのは、社会問題に強い関心があったからです。労働法や社会保障法は、人の生活や働き方に深く関わる、非常に人間く

さい分野です。単純に正解・不正解で割り切れない問題が多く、そこに面白さを感じました。修士課程の修了後、実際に団体職員として働くなかで、現実の社会では法律どおりにいかないこと、法律を厳守しようとすれば現実が追いつかないことも少なくないと感じました。「法律は現場で役に立っていない」という現状を受け、理論と実務をうまく接合したいと考え、研究の道に進みました。

正解のない問題に向き合い、自分の頭で考えることが大切。



特に関心を持っているのが「災害時に労働者の安全をどう守るか」というテーマです。現行の労働法では、会社に従業員の安全・健康を守る義務が課されていますが、多くの場合、「違反があったら損害賠償請求が可能」という事後的なものです。危険が差し迫った場面では、「被害が出る前にどう守るか」が重要です。その

ため労働者が自らの判断で一時的に業務を離れる「退避権」に着目しました。ただし「どのような状況なら業務を拒否できるのか」という線引きは容易ではなく、場合によっては事後に責任を問われるリスクも伴います。この点を法律的にどう整理するかが、主な研究課題です。

東日本大震災での災害時における自治体職員の例として、避難所の運営や各種手続きへの対応で長時間労働が常態化するケースが多く見られました(図1)。2020年から2024年にかけて、私の行った全国の自治体・労働組合へのヒアリング調査では人手不足が深刻化しメンタル面に不調を訴えるなど、法令遵守と住民の生活支援の両立は容易ではありません(図2)。今後、自然災害時の労働者の心身の安全確保システムの構築と提言、あるいは災害時に働かなければならない労働者の精神疾患の因果関係の立証方法等を提案していきたいです。

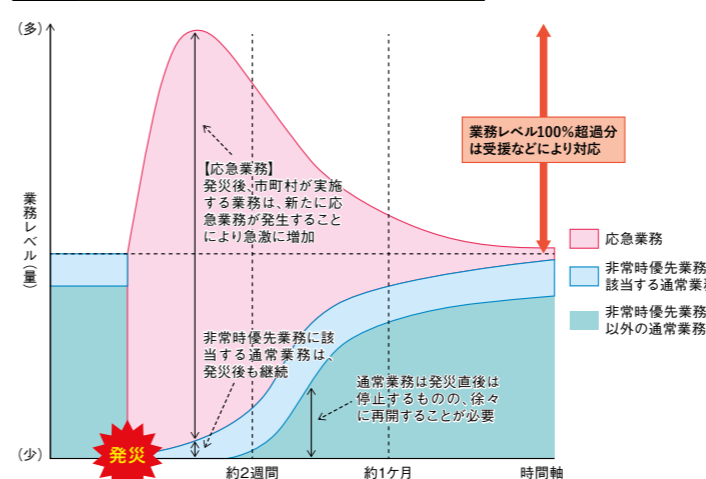
コロナ禍に普及したテレワークも重要な課題の一つです。在宅勤務は災害時にも有効な手段ですが、すべての業務に適用できるわけではなく、「出社命令を拒否できるのか」「テレワークを求める権利はあるのか」といった問題も十分に整理されていま

せん。こうした新しい働き方と法律の関係にも研究を深めたいと考えています。

私は「誰もが賛成する美しい正論」ほど、一度立ち止まって考える必要があると思っています。ワークライフバランス、子育て支援、ハラスメント防止などは大事な視点ですが、抽象度が高く、人によって受け取り方が異なり、別の課題や負担を生むこともあります。だからこそ「なぜそう言えるのか」を問い、そこから漏れる人々に思いを馳せることが大切です。

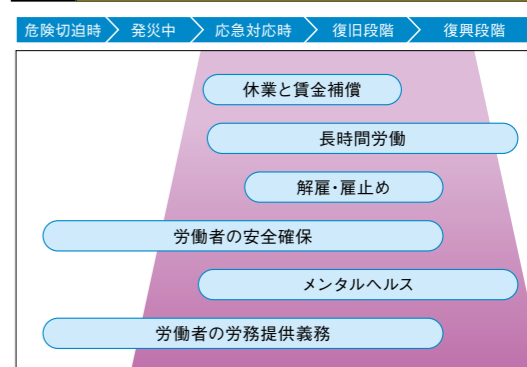
これは大学での学びにも通じません。大学で学んだことは社会で役に立たないと言われることがあります。大切なのは知識そのものよりも「正解のない問題にどう向き合うか」という姿勢です。すぐに答えの出ない問いに対して、自分なりに考え、納得できる結論を導き出す。その経験こそが、社会に出た時の確かな力になります。社会には、明確な正解のない問題が無数にあります。真面目な学生さんほど「正解はない」と言われると戸惑うことがあるかもしれませんが、現実の社会では、正解がないことのほうがずっと多いのです。そのことを肌で感じながら、さまざまな考え方に触れ、自分の頭で考える力を育ててほしいと願っています。

図1 発災後に市町村が実施する業務の推移



※内閣府「大規模災害発生時における地方公共団体の業務継続の手引き」より引用

図2 大規模自然災害の時間軸ごとに、具体化しやすい労働問題(イメージ) ※大地震→津波の例



現行の労働法は自然災害の頻発を想定し、整備されているわけではない。災害発生後の刻々と変わる状況下では、法的な義務(安全配慮義務など)と照らし合わせながら、会社による継続的なフォローアップが不可欠である。

初心者も経験者も、ともに高め合えるステージ 仲間と刻むリズムが、かけがえのない絆になる

体育館に響き渡る音楽と軽快なステップ。そして、130人を超えるストリートダンサーのパワーと熱気。仲間とともに楽しみながら、今日も新しいリズムを刻み続ける、ストリートダンス部MECの現在地を紹介します。



ストリートダンス部 MEC (Mighty Elements Crew) 幹部

篠田 英兎 さん	柴垣 仁那 さん	成瀬 愛夏 さん	横山 春奈 さん
工学部 機械工学科 3年	地域科学部 地域政策学科 3年	応用生物科学部 応用生命科学課程 3年	教育学部 英語教育講座 3年

岐阜大学ストリートダンス部 MEC (Mighty Elements Crew)

1997年頃に同好会が発足。現在は130人ほどのメンバーが所属する学内最大級の団体で、月曜(18~21時)と水曜(13~16時)に第2体育館で練習。ヒップホップ「gear2nd」、ロック「岐大ロックーズ」、ジャズヒップホップ「Jasmine hop」、ブレイク「Pilotorz」、ポップ「A Kanky Crew」、ハウス「Firststeps」、クランプ「STREET BANDITZ」、ワック「わっくわっくさん」の8ユニットが活動する。

主な活動スケジュール

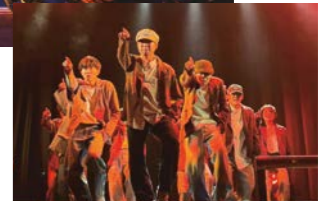
4月 新入生歓迎イベント	11月 岐阜大学祭(岐大祭)
岐阜大学春祭	12月 自主企画イベント「GRUSP」
7月 自主企画イベント「MEC Concert」	1月 センターボード
8月 イベント「FLOCK SUMMER」	2月 イベント「DANCE MISSILE MAX」
夏休み MEC Camp	大会「BUZZSTYLE 1年生コンテスト」
	3月 自主企画イベント「MEC Night」



ジャンルごとに分かれて練習。具体的なアドバイスが飛び交う活発な雰囲気があります。基礎を大切にし、互いの個性を引き出し合う時間です。



大規模なホールやライブハウスなど、照明や音響の設備が整った環境でのイベントも開催。選曲や振り付けはもちろん、照明なども自分たちで演出します。



大切な仲間たちと分かち合うこの時間、 チームの熱量が、観る人の心に届くメッセージに。

経験差も乗り越えて、
全員の個性が響き合う場所

「初心者でも、絶対に踊れるようになるよ」そう背中を押されて、入部を決める学生は少なくありません。ダンス経験者も、初めて挑戦する者も隔てなく、MECには誰もが個性を発揮し活躍できるフィールドがあります。現在の部員数は130人超。私たち4人は幹部として、この大きなチームを支えながら、日々の運営に力を注いでいます。大所帯ですが出席率はとても高く、練習場はいつも活気に溢れています。「どうすればもっと良くなるか?」と、学年や経験を問わずフラットに意見を交わし合える雰囲気があります。練習を休んだメンバーには動画を添えて内容を共有するなど、「誰も取り残さない」という大らかな文化が自然と根付いていると感じます。私たち自

身も支えてくれた尊敬する先輩の姿を目標に、温かい眼差しで後輩たちに向き合いながら活動しています。

多彩なジャンルが生み出す
自分たちだけの表現

MECにはヒップホップやロック、ブレイクなど8つのダンスジャンルがあり、それぞれのジャンル長がユニットをまとめています。週2回の練習では、ジャンルごとに基礎練習や振り付け、作品制作を行います。時にはジャンルの垣根を越えた少人数チームや合同作品にも挑戦しています。

発表の場は多岐にわたり、自主企画イベントや大学祭、式典のような大学行事での披露など、毎月のようにステージに立つ機会があります。12月に開催する「GRUSP」は、MEC最大の祭典であり、私たちの活動の

集大成でもあります。プロダンサーやダンスバトルのジャッジをゲストに迎え、他大学のダンサーも集結する自主企画イベントです。

InstagramやYouTubeでの広報活動にも力を入れています。情報発信はもちろん、自分たちのパフォーマンスがアーカイブされることは、何より大切な記録になると信じて取り組んでいます。

私たちが何より大切にしているのは、「全力で取り組み、楽しむこと」。メンバーにはそれぞれのバックグラウンドがあり、得意な動きも感性も、MECに求めているものも違います。だからこそ仲間同士で尊重し合い、認め合い、高め合う。そんな思いやりの心で切磋琢磨していくことで、その先にある「自分たちにしかない表現」を、これからも追求し続けていきたいです。



ストリートダンス部顧問
教育学部
熊谷 佳代 教授

過去には、部員間の熱量の差から解散の危機に陥ったこともありましたが、今は、そんなことを微塵も感じさせない一体感のある雰囲気が広がっています。リスペクト精神が継承されていることを大変うれしく思い、全力で切磋琢磨し、心から楽しんでいる様子をほほ笑ましく見守っています。

幹部交代は2年生の秋、先輩と仲間が支え合いながら自主的に運営しています。ダンス部での経験は彼らにとって将来の糧になると確信しています。



大学の創立記念行事やシンポジウムなどでの出演依頼も多数。会場の雰囲気を意識し、シックな衣装やキャッチーな選曲を取り入れています。





協同組合 岐阜関刃物会館
桜田 公明 専務理事

協同組合 岐阜関刃物会館
田中 彰 理事長

工学部 機械工学科 機械コース
関の刃物サステナブル技術革新拠点 拠点長
畝田 道雄 教授

大学院 自然科学技術研究科 刃物学リーディング人材育成プログラム

知識を実社会へ。暗黙知を形式知へ。 刃物産業の未来を切り拓く、実践的「刃物学」。

岐阜大学と岐阜関刃物会館が2023年8月に締結した包括連携協定を機に、本学工学部に関の刃物サステナブル技術革新拠点が設置されました。2025年度からは、修士課程の正課科目として「刃物学リーディング人材育成プログラム」がスタート。関鍛冶伝承館や岐阜関刃物会館、岐阜県産業技術総合センター、さらには民間企業の協力のもと、実社会での活用を見据えた実践的な教育が行われています。

このプログラムの最大の特徴は、三徳包丁の寸法計測から3D-CADによる設計や産業用ロボットの操作修得、高度な熱処理、切れ味の加工・評価、さらには「どう売るか」というマーケティングまでを一貫して学べること。伝統産業を持続発展させるには、刃物の魅力を発信しファンを増やす市場創造の視点も不可欠です。市場を意識した行動や設計まで学ぶことで、広い視野を持つ人材を育て

対象学生：自然科学技術研究科 履修期間：1年次 後学期（集中・第3チーム）

関市の刃物産業界と連携しながら、伝統的な「匠の技」を科学的に見える化し、体系的に学ぶことができる人材育成プログラム。刃物生産に関わる計測や設計、マーケティング手法などの5つの演習科目を通じ、学部教育で培った知識を実社会で生かす力へと発展させます。学生と企業の若手技術者が共に学ぶ「共創」の場でもあり、地域産業の課題に向き合う次世代リーダーの輩出を目指しています。

たいと考えています。刃物業界における職人の高齢化や技術継承という課題に対し、熟練職人の「長年の勘（暗黙知）」を、誰もが理解できる「言葉や数値（形式知）」へと見える化し、地域の刃物の価値や技術革新を具現化するプロセスに挑んでいます。

研究の成果として、刃物の切れ味を力学的に数値化する独自の評価装置の開発も進めています。切れ味の標準化と社会実装を目指し、例えば果物を糖度で選ぶように、包丁の切れ味も客観的な数値で選ぶようになることで、関の刃物ブランドに揺る

ぎない信頼を付与したいと考えています。また、地元の若手技術者もリカレント教育として共に学ぶことで、産学共創の相乗効果を生む仕組みも整えています。

人口減少が進むなかで、伝統産業の今の姿を維持し続けることは、とても大きな挑戦です。だからこそ、この一連のプログラムを通して「自分の学びがこの産地を支えている」という強い当事者意識を持ってほしい。現状を守りながら未来へつなぐための新たな価値を創り出す存在になることを期待しています。

刃物学リーディング人材育成プログラム概要と特色

1年の試行期間を経て2025年度より正式に開始された専門教育プログラム。精密工学に基づく科学的分析と学生や若手技術者が共に学ぶ共創システムを融合。実践的実習を通して、伝統技術を次世代につなぎ、新たな市場を創造する高度な統合力を養います。

刃物計測演習

関鍛冶伝承館や岐阜関刃物会館の協力のもと、日本刀を例とした刃物の歴史を学び、形状を決定する寸法の計測技術を修得。さらに、計測結果をデータサイエンス手法で適切に処理・考察し、成果を整理して発表する能力を養います。



刃物設計演習

3D-CADを用いたデザイン手法と最適な刃物設計、製造現場で不可欠な産業用ロボットの操作手法を修得。産業用ロボットの使用に関する法令や安全上の注意点を理解したうえで、基礎的な操作を実践し、結果を整理して発表します。



刃物熱処理演習

刃物製造に不可欠な熱処理について、企業の協力のもと実践的な事例を交えて学びます。熱処理の種類や目的について理解を深め、実際に熱処理された材料の組織観察や硬さ試験を行い、材料特性を適切に評価・整理します。



刃物加工演習

刃物の重要性能である「切れ味」がテーマ。各種切断方法の相違に即して、等価刃先角度の観点から引き切りの優位性を理解し、切れ味試験を適切に実施してデータを取得。表面形状測定や評価法の概論を実践的に学びます。



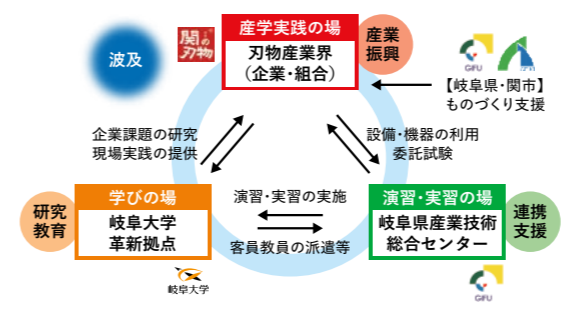
マーケティング・デザイン思考特論

大手刃物メーカーの協力のもと、刃物業界の経営戦略やマーケティング、経営理念の重要性を学びます。問題把握のうえ、システム思考×デザイン思考を用いた解決への立案手法も体得。顧客を意識した行動設計を深く考えます。



刃物産業を次世代へつなぎ、産地をさらに盛り上げていく人材を育成

関の刃物サステナブル技術革新拠点とは

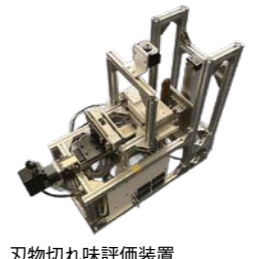


岐阜大学と岐阜関刃物会館を中心に、自治体や企業と連携し、伝統の継承と科学的革新を両立させる、刃物産業の持続可能な発展を目指す共創拠点。刃物学を学問体系化するとともに、若手技術者や学生が共に学ぶ、共創システム×デザイン現場をつくることを目的としています。

従来、刃物の切れ味は「紙を何枚切れるか」といった単純な指標や職人の感覚で評価されてきました。本拠点では、切断時にかかる3方向の力（押し・引き・左右拡開）を同時に計測し、力学的に数値化する独自の「刃物切れ味評価装置」を開発し、客観的な指標の確立、そして特許出願へと展開しています。

研究成果を実社会へ

2026年2月26日、関市の「せきてらす」において「関の刃物サステナブル技術革新拠点 2025年度成果報告会」を開催。学生による研究プロジェクトの成果や演習での取り組みが発表されました。会場では、「画像および3分モニタリングを利用した刃物の切れ味評価試験装置の開発」や「はさみを対象とした新規刃物切れ味評価法と専用装置の設計・試作の研究」といった最新の研究成果が発表され、装置の実演や試作品の展示も実施。産学官の枠を超えた多くの関係者が集う報告会は単なる発表の場にとどまらず、学生にとっては社会や地域からの期待を直に感じられる刺激的な場となっています。



刃物切れ味評価装置



2025年度成果報告会

「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催しました

令和7年10月4日(土)

OKB岐阜大学プラザにて「岐阜大学経営者の会」設立総会が開催されました。本会は、「挑戦と共創で、未来を拓く会」を理念に掲げ、岐阜大学で学んだ経営者が世代や業種を越えて交流を深め、相互のネットワークを通じて新たな価値を創出するとともに、母校および地域社会の発展に寄与することを目的に設立されたものです。当日は、吉田学長をはじめ大学執行部や卒業生、経営者など、計65名が参加し、盛況のうちに発足を迎えました。



NHK「みんなのうた」特別企画に協力し、学生たちがダンスを披露しました

令和7年10月21日(火)

本学は、NHKのSDGs放送キャンペーン「ひろがれ！いろとりどり」シリーズの一環として制作された「ツバメ」(うた:YOASOBI withミドリズ/振付:MIKIKO)岐阜バージョンの撮影・制作に協力しました。今回の企画には岐阜大学から、ストリートダンス部 MEC、岐大祭マスコットキャラクター「ぎだにゃん」らが参加し、SDGsこどもユニット「ミドリズ」の皆さんと一緒に「共に生きる」大切さをダンスで表現しました。



学生チーム「iGEM Gifu」がiGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞しました

令和7年10月28日(火)～31日(金)

フランス・パリで開催された、世界最大級の学生主体による合成生物学大会「iGEM 2025 Grand Jamboree」において、50を超える国・地域から約400チームが参加する中で、本学の学生チーム「iGEM Gifu」が長浜バイオ大学と合同で結成したチームの「Japan scinet」が金賞を受賞しました。「Preser VEG - Preserve Vibrant Edible Goods!!」というタイトルで、食品ロス削減に向けた新たな合成生物学的アプローチを提案したことが評価されました。



吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞しました

令和7年10月16日(木)～18日(土)

第63回日本癌治療学会学術集会において、吉田学長が「第31回中山恒明賞」を受賞しました。この賞は日本癌治療学会から、がん治療・診断・予防の分野で顕著な業績を挙げた研究者に贈られる名誉ある賞であり、がん外科領域における最高峰の栄誉の一つ。吉田学長による「消化器癌における分子病理学的解析と集学的治療開発に関する研究」が、分子レベルでの病態解明と治療法の革新に大きく貢献したとして今回の受賞に至りました。



医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年記念式典を開催しました

令和7年10月26日(日)

本学医学部が創立80年、医学部附属病院が創立150周年を迎えたことを記念し、岐阜グランドホテルにて記念式典を開催しました。式典は、医学部室内合奏団による演奏から始まり、牛越博昭医学系研究科長・医学部長、秋山治彦医学部附属病院長からの挨拶、吉田和弘学長による記念講話、清水雅仁医学部附属病院副院長から医学部80年・附属病院150年の歩みの紹介などがあり、出席した約160名の関係者とともこれまでの軌跡を振り返りました。



医学部附属病院の畑中勇治臨床講師が外科技術競技大会で世界一に輝きました

令和7年11月4日(火)～8日(土)

医学部附属病院消化器外科の畑中勇治臨床講師が、11月にシンガポールで開催された「MIS Championship 2025」に日本代表チームの一員として出場し、世界一の栄冠を獲得しました。この大会は、腹腔鏡手術を中心とした低侵襲外科手術の精度・スピード・安全性を競うもので、世界各国から選抜された12チームが参加しました。今回の優勝は、地域医療から世界水準の医療へとつながる取り組みを強化する本学の教育・研究の質の高さを示すものとなりました。



大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催しました

令和7年11月17日(月)

大学会館食堂を新たに「API DINING」と命名する、記念式典が開催されました。式典には、アピ株式会社より野々垣代表取締役社長をはじめとする関係者、本学からは吉田学長、王副学長、高橋副学長補佐などが出席。大学会館食堂はアピ株式会社との連携を象徴する施設として新たな一歩を踏み出しました。この愛称は令和11年10月31日までの4年間使用され、命名権事業で得られる収益は本学の教育及び研究の発展・向上に役立てられます。



七宗町と「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結しました

令和8年1月23日(金)

岐阜大学地域連携推進本部と七宗町は「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結しました。本覚書は、令和6年に締結した「七宗町と国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学との連携に関する協定書」に基づき、本学教員が休日に高校に出向き、高校生に対して専門的な講義を行うものです。高度な学びを体験できる環境を提供することで、大学の研究知を届けるとともに、若者の学習意欲向上と地域の未来を担う人材の育成を目指します。



「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で本学学生が日本MITベンチャーフォーラム賞を受賞しました

令和8年2月24日(火)

「学生起業家の登竜門」と呼ばれる「キャンパスベンチャーグランプリ」の全国大会で、応用生物科学部4年・杉本稜太さんが「日本MITベンチャーフォーラム賞」を受賞しました。杉本さんは「起業部」在籍中に「Umami Japan株式会社」を設立。自社で柿農地を保有し、生産から販売までを一貫して行うほか、海外輸出にも積極的に取り組んでいます。岐阜県特産の富有柿「Umami KAKI」は、国内の高級スーパーやオンラインショップで販売されており、JAL国際線ファーストクラスでも採用されるなど、グローバルな展開が進められています。



医学部附属病院の岩田尚教授が日本内視鏡外科学会の「大上賞」を受賞しました

令和7年12月11日(木)～13日(土)

医学部附属病院呼吸器外科長の岩田尚教授が、日本内視鏡外科学会において「第18回 大上賞」を受賞しました。この賞は、内視鏡外科学の発展と普及に著しく貢献した者1名に、年に1度贈られる賞で、国内の内視鏡外科に携わる医師たちにとって最高の栄誉とされています。岐阜大学からの同賞受賞は今回が初。岩田教授は「伝統ある大上賞を拝受し、身に余る光栄です。今後も益々精進してまいります」とコメントされました。



3次元積層造形活用技術開発センター開所式を開催しました

令和8年1月26日(月)

新たに設置された「3次元積層造形活用技術開発センター」は、金属積層造形技術の分野における国内フロントランナー企業や大学・研究機関が結集し、技術開発および社会実装に共同で取り組むことで、その成果を広く発信・展開することを目的としています。開所式には、経済産業省製造産業局素材形産業界長の大今宏史氏、北陸デジタルものづくりセンター所長の芦田極氏をはじめ、共同研究に取り組む参画企業・機関や、本学役員など多数が出席しました。



インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムに参加しました

令和8年3月7日(土)～11日(水)

吉田学長、リム副学長(国際担当)らが、協定大学のインド工科大学グワハティ校(IITG)を訪問しました。同校で開催された「グワハティJDPシンポジウム」には、大学関係者をはじめ、政府関係機関や産業界関係者など約190名が参加。冒頭では、吉田学長が登壇し、北東インドを軸とした国際共同教育や産学連携の可能性について幅広い議論を交わしました。さらに、本学とIITGを含む北東インドの計21大学による「北東インド・日本大学連携コンソーシアム」の設立に向けた意向表明書署名式も行われ、岐阜大学は日本側の調整機関として参加しました。



岐阜大学基金にご支援をお願いします。

岐阜大学基金では、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など教育研究活動に活用させていただきます。

皆様におかれましては、岐阜大学基金の趣旨にご賛同いただき、継続的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岐阜大学基金の主な事業内容

- 学生支援・国際交流支援事業 優秀な学生への給付型奨学金(応援奨学生)、留学・海外研修奨学金等
- 修学支援事業 生活に困窮する学生を学内で雇用等
- 特定事業 特定した用途に対する寄附金により実施する事業
- 冠特定事業 一定額以上の寄附金について用途を特定し実施する冠事業
- 大学経営自律化促進事業 資産運用の元となる資金を創出する事業

岐阜大学基金についてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office (DO室)
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@t.gifu-u.ac.jp

ご寄附のお申し込みはこちら <https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>

※お振込用紙をご希望の場合は、上記お問い合わせ先へご連絡ください



活動実績 (創設～令和7年度末まで)

● 応援奨学生 368名: 1億4,800万円 ● 留学・海外研修奨学金 394名: 5,000万円 ● 新型コロナウイルス関連学生支援(生活支援給付) 2,405名: 7,500万円 など、主に学生に関する支援を中心に活動しています。



ご寄附者芳名録

令和7年10月から令和8年2月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、3月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学教職員につきましては割愛とさせていただきます。

ご寄附をいただき、心よりお礼申し上げます。

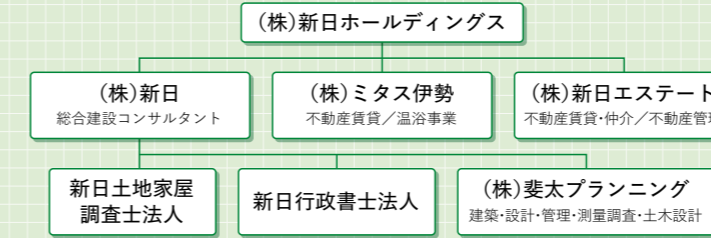
相場 正彦様	宇野 恭夫様	桐山 綾子様	菅田 康朗様	中島 康様	舟橋まゆみ様	矢田 泰生様
青木 廣志様	浦崎 孝昭様	草 佳那子様	草 佳那子様	中島由起子様	細川 勝由様	山口 清次様
赤塚 邦芳様	遠藤 國夫様	熊澤 忍様	瀬尾 直生様	名和 武子様	堀 伸次様	山崎 達男様
浅野 勝己様	大西 直美様	倉本 弥生様	高木 敏治様	名和真千子様	堀尾 勝幸様	山田 敏彦様
晴地 修様	大野 久和様	黒崎 佳祐様	高橋 忠明様	西野 一美様	舛田 剛志様	山田 典子様
安藤 幸子様	大橋真佐子様	桑原 富子様	高橋 晴子様	西村千恵美様	松浦 克彦様	山本 典生様
安藤 隆史様	岡田 直樹様	小木曾克也様	高橋 睦様	西脇 衛様	松岡 恵子様	山本 浩典様
安藤 浩様	岡田 実様	小島 孝博様	高橋 義人様	二宮 輝子様	松田 典芳様	横田 勇司様
飯田 辰美様	小川 康晴様	後藤 恵美様	瀧下亜紀子様	丹羽 俊晴様	松田 聖士様	横山美知子様
石垣 登様	長田 千月様	後藤 勝美様	田口 智一様	野原 正美様	松原 豊様	吉田 政直様
石川 広樹様	長村 覚様	後藤 忠喜様	竹内 兼蔵様	野村 務様	松本 茂美様	林 翰波様
石川由美子様	尾嶋 清次様	後藤 稔様	竹澤幸一朗様	長谷川泰洋様	松本 俊明様	若園 正之様
石樽 洋子様	加藤 駿一様	小林 房代様	武田 純様	服部 圭子様	水谷 真基様	若原 和男様
石山千代子様	加藤 肇様	小林 勇樹様	竹中 登一様	馬場 紀行様	水野 智章様	渡部 公民様
伊田 明弘様	加藤 久和様	小林 良博様	武山 晴彦様	早崎 鉄也様	水野 芳晴様	
市川 雅弥様	加藤 浩子様	小松 泰生様	田中 伸次様	早矢仕昭博様	宮崎 尚弘様	
市川 幹雄様	可児 光子様	小見山輝人様	田中 義昭様	日置 雅夫様	宮武 博明様	
伊藤 孝一様	加納 宏様	近藤 國芳様	谷口 和視様	平井 功様	見山 政克様	
伊藤 秀久様	亀井 晃様	近藤 茂之様	谷口 陽一様	平井 瑞子様	村上 さと美様	
伊藤 涼子様	亀井喜久男様	坂下 盈彦様	柘植 治人様	福井 隆様	村田 尚生様	
稲毛 雅則様	唐澤 星人様	佐藤 万仁様	土屋 初恵様	福本 勝彦様	森 敬一様	
今井 利雄様	刈谷 和奈様	佐藤百合子様	土井涼太郎様	藤井裕美子様	役 康子様	
岩田 恵子様	川島 光夫様	重田 頼様	富川 侑誼様	藤代 勝様	矢嶋 英敏様	
岩田 淳子様	神田 晃様	嶋 睦安様	嶋 洋様	藤田 一實様	安田 高明様	
岩田 元様	北村裕美子様	白髭 誠男様	中島 弘義様	藤田 孝子様	安田 直彦様	
上田 元信様	北山 則子様	杉山 達彦様	中島 康雄様	藤森 了堅様	安永 晴一様	

法人・団体等

アプロ通信(株)	大島印刷(株)	(株)西濃鉄筋	(医社)厚仁会操外科病院
(株)APEX	(公財)小川科学技術財団	太陽化学(株)	ミニストップ(株)
(株)Alumnote	(同)Things	萩原電気ホールディングス(株)	(株)メニコン
(有)イルカグループ	(一財)誠仁会	早川精機工業(株)	他2法人



<https://shinnichi.co.jp/>



東日本震災復興整備事業

2011年東日本大震災により、破滅的被害を受けた被災地の市街地復興事業に貢献。新日は、被災地復興整備事業の共同企業体の一員として、用地買収、測量設計、工事監理を担当し、2020年まで復興事業に携わりました。



リニア中央新幹線事業

リニア中央新幹線の名古屋の新駅は、地下30mに建設が予定されており、「区分地上権」の設定が必要となります。新日は、このリニアの開業に向け、工事に先立ち用地取得等に必要となる測量や補償に係るコンサルタント業務を担当しました。

写真撮影者 山田清岡



奉仕に徹し一歩、一歩、
…また一歩

「あったらいいな」をカタチにする!!
世界に一つだけの技術
新しい何かを生む!!

CHALLENGE
OUR ORIGINALITY
TOYO SEIKO

TOYO SEIKO CO., LTD.
東洋精鋼株式会社
World Leading Company for Shot Peening

TOYOSEIKO's Website

街を、未来を創る。

道路や公園が効率的に配置され、自然に囲まれて四季を実感できる街。
協和設計はそんな理想的な街づくりをめざしています。
豊富な経験と確かな技術によって
地域の発展や活性化のお役に立つことが私たちの使命です。

営業種目 測量登記/道路設計/建築設計/公園設計/
都市計画(区画整理および宅地開)/上下水道設計

都市計画・不動産業
株式会社 協和設計
愛知県名古屋市緑区倉坂 1515 番地
TEL: 052-624-2100 FAX: 052-622-1781

※広告に関するお問い合わせは各企業・団体までお願いいたします

岐阜大学オープンキャンパス2026

Gifu University
**OPEN
CAMPUS**
\\ 2026 //



事前予約が必要な企画もございます。

【事前予約の申し込みはこちらから】

https://www.gifu-u.ac.jp/admission/open_campus/oc.html



日程詳細や予約期間は
各学部の開催2か月前
ごろに掲載予定。

障害や慢性疾患等のために修学に際し配慮が必要な方の事前相談窓口を設けます。詳細については、WEBページでご確認ください。

6/13 土

地域科学部

7/11 土

社会システム経営学環

7/12 日

教育学部

8/7 金

医学部 医学科 午前のみ
工学部

8/21 金

応用生物科学部
糖鎖生命コア研究所

8/22 土

応用生物科学部 午前のみ
糖鎖生命コア研究所 午前のみ

10/4 日

医学部 看護学科

【開催場所】
岐阜大学
柳戸キャンパス

各学部で開催日程が異なります。

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構

岐阜大学

●お問い合わせ：岐阜大学学務部入試課
TEL. 058-293-2157 / 2156
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
ホームページ <https://www.gifu-u.ac.jp/>

